

幼稚園における身体表現あそびの実践内容について

— 保育歴による違いから —

多胡 綾花^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

身体表現あそびが保育現場で十分実践されるためにはどうしたらいいのか。表現あそびや身体表現あそびの実践状況をまず把握することから始めたい。身体表現活動実践にむけた具体的な手立てや課題を明らかにすることを本研究の目的とする。

【キーワード】

保育内容「表現」 身体表現あそび 幼稚園

1. はじめに

領域「表現」の「感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」¹ねらい達成のためには、音楽、造形、劇、舞踊などの専門的な分野ごとの指導ではなく、子どもたちの気持ちの表れや表しがあるがままに受け止め、受容・共感することが大切である²。また子どもたちの表現を保障するためには一つの表現方法に偏ることなく、多様な方法に触れることが重要である。歌唱、演奏、描画、製作、ダンス、オペレッタ、劇など様々な表現方法がある中で、「からだであらわす」身体表現は表現の基本であり、「身体表現」が十分実践される機会や場が必要である³。しかしながら、幼児教育や保育の現場では、「表現」と関わる保育内容が長い

間「音楽リズム」、「絵画制作」と示されてきたことから、音楽や造形表現に偏りがちで⁴、身体表現活動は音楽の下位に位置付けられものと捉えられるなど、身体表現あそびが十分に実践されてきたとはいいがたい。

身体表現あそびが保育現場で十分実践されるためにはどうしたらいいのか。本研究では、表現あそびや身体表現あそびの実践状況をまず把握することから始めたい。実践状況は保育歴の違いによって分析していく。

語義規定

本研究における「身体表現あそび」は、「感じたことや考えたことを動きで表現したり、演じて遊んだりするあそびや活動」⁵示す。

先行研究

「身体表現」と「保育歴」については、本山益子他(2003)「保育における身体表現Ⅲ－保育歴によ

<連絡先>

多胡 綾花 a.tago@shohoku.ac.jp

る違い」がある。この研究では、身体表現をA[イメージを中心とした表現]、B[音やリズムを中心とした表現]、C[日常的に自然にあらわれる表現]の3種類に分類し、それぞれについての保育者の意識(日常保育・年間計画・養成校教育・得意意識・望ましさ)について保育歴別(0～4年・5～9年・10～14年・15～19年・20年以上)に検討をした。結果、3種類の身体表現の特性、得意意識については保育歴による違いは認められなかったという。しかし、身体表現活動の望ましさについて積極的に認める回答が15年未満と15年以上の間に差があり、保育歴の浅い保育士ほど、その活動としての望ましさを積極的に認める傾向があるのに対し、保育歴の長い保育士は「身体表現」の望ましさを積極的に認める傾向が弱くなっている様子が伺えたとする。1990年における「保育指針」改定による「保育内容」の再編成が関係しているのではないかと考察している。

II. 研究目的

身体表現の実技講習に参加した現任幼稚園教諭46名(保育歴1年目～20年以上)を対象に表現あそびおよび身体表現あそびの実践状況と内容の質問紙調査を行った(有効回答数37名:97.8%)。この実技講習参加者は自発的な講習の参加であったことから、比較的「身体表現」についての意識の高い保育者といえる。

調査項目は、①領域「表現」を元にした内容8項目の実践状況と実践内容、②身体表現あそび実践上で苦労している点、③子どもたちが進んで取り組みやすい身体表現あそびの題材、④保育者が取り組みやすい身体表現あそびの題材、⑤子どもたちがなりきって表現しているエピソードについて調査した。

これにより、身体表現あそび実践にむけた具体

的な手立てや課題を明らかにすることを本研究の目的とする。

III. 研究方法

1. 調査方法・対象・時期

- ① 方法 質問紙調査法
- ② 調査時期 2011年8月(神奈川県)
- ③ 調査数
有効回答37名(97.8%)／全回答者46名

2. 協力者の属性

幼稚園教諭37名(男性0名、女性37名)

3. 内訳

① 保育歴

表1 保育歴

	保育歴	人数	人数
新人期	0年	5	13
	1～3年	8	
中堅期	4～6年	10	15
	7～9年	5	
ベテラン期	10年以上	7	9
	20年以上	2	
	合計	37	37

本研究では、保育歴を0～3年までを「新人期」(13名)、4～9年を「中堅期」(15名)、10年以上を「ベテラン期」(9名)とする。

② 担当クラス

表2 担当クラス

	新人	中堅	ベテラン	計
年少	4	5	3	12
年中	6	6	3	15
年長	3	3	2	8
フリー	0	1	0	1
主任	0	0	1	1
計	13	15	9	37

4. 質問内容

質問内容は以下の通りである。

表3 質問内容

設問	調査内容
1	領域「表現」内容の実践状況（5段階）と実践内容（自由記述）
2	身体表現あそび実践上で苦労している点（自由記述）
3	子どもたちが進んで取り組む身体表現あそび（自由記述）
4	保育者が取り組みやすい身体表現あそび（自由記述）
5	子ども達がなりきって身体表現しているエピソード（自由記述）

実施度が低いのは「⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ」（2.92）であった。中堅群では、実施度が高いのは「⑦造形あそび」（4.2）、「⑥音楽あそび」（4.13）、「⑤いろいろな素材あそび」（4.07）で、実施度が低いのは「③感動したことを伝え合う」（3.47）である。ベテラン群で実施度が高いのは「⑦造形あそび」（4.44）、「③感動したことを伝え合う」（4.22）、「⑤いろいろな素材あそび」（4.22）であり、ベテラン群の中で実施度が低いのは「①音、色、形、手触り、動き」（3.89）である。

以上から、「⑦造形あそび」、「⑥音楽あそび」、「⑤いろいろな素材あそび」の実施度が高いということが分かった。

Ⅳ. 結果

1. 領域「表現」の実践状況と実践内容

（1）領域「表現」の実践状況

幼稚園教育要領の領域「表現」8項目の実践状況について、「5. よくする」、「4. する」、「3. たまにする」、「2. あまりしない」、「1. しない」で数値化し、各群の平均値を算出した。これを各群の実施度と捉え、「5」に近い値を実施度が高いとした。

新人群で実施度が高いのは「⑥音楽あそび」（4.38）、「⑦造形あそび」（4.23）の順番であり、実

図1 表現あそびの実施度

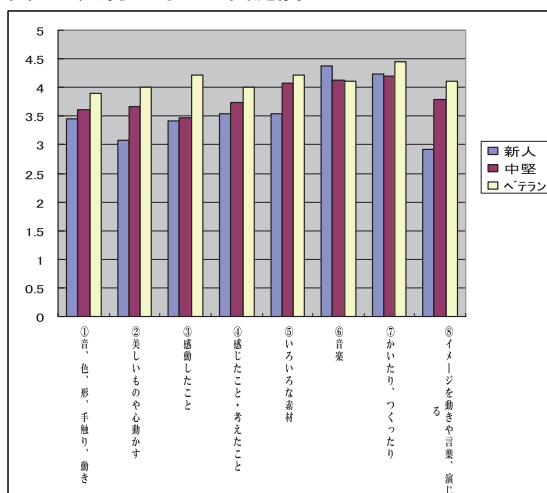


表4 表現あそびの実施度

内容	新人	中堅	ベテラン	全体
①音、色、形、手触り、動き	3.46	3.62	3.89	3.66
②美しいものの心動かす出来事	3.08	3.67	4	3.58
③感動したことを伝え合う	3.42	3.47	4.22	3.7
④感じたことの表現	3.54	3.73	4	3.76
⑤いろいろな素材あそび	3.54	4.07	4.22	3.94
⑥音楽あそび	4.38	4.13	4.11	4.21
⑦造形あそび	4.23	4.2	4.44	4.29
⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ	2.92	3.79	4.11	3.61
平均値	3.57	3.83	4.12	3.84

次に、項目ごとに各群の比較をしていく。棒グラフで示したのが図1である。

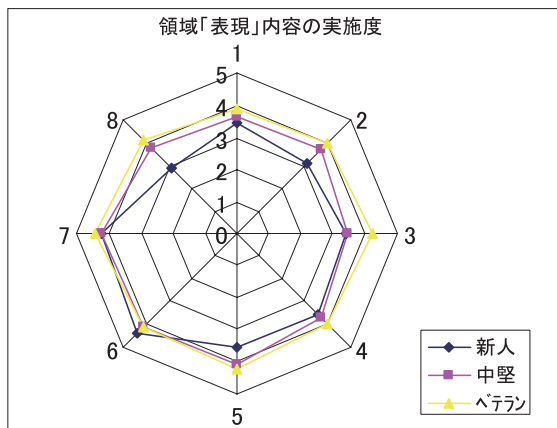
グラフより、「⑥音楽あそび」以外の7項目において、新人群→中堅群→ベテラン群という順番に実施度が高くなっている。経験を重ねるにつれて領域「表現」の内容がしっかり実践できているということが分かった。一方、「⑥音楽あそび」は新人群(4.38)が最も実施度が高く、中堅群(4.13)、ベテラン群(4.11)となっていく。このことから新人保育者ほど⑥の音楽活動をよく実践しているということが分かった。

次に、各群の比較を行う。新人群と中堅群さらにベテラン群と差が大きかったのは、「⑧イメージの表現あそび、演じてあそび」内容である。イメージの表現あそびは経験を重ねるうちに十分実践できるようになると分かった。次に、新人群・中堅群ともにベテラン群と差が大きいのは、「③感動したことの伝え合い」である。日々の生活や活動を振り返り、感動したことを伝え合うという活動はベテランほど実践できていると分かった。

続いて、各内容の実践のバランスについて保育歴ごとに比較していく。

この結果をグラフにしたものが以下である。

図2 表現あそび実施バランス



新人群では実施度の八角形に歪みがあるが⁶、ベテラン群になるほど、各項目の実施度が上がり、綺麗な八角形になっている。ベテラン群になるほどバランスよく各内容を実践していると分かった。

(2) 領域「表現」の実践内容

①領域「表現」の実践内容

領域「表現」内容として、具体的にどのような活動を実践しているのかを自由記述で回答してもらった。全回答をまとめたものが表5である。表5より、多岐にわたる内容が実践されているということが分かった。

新人保育者が実践できていないとした「⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ」については、「劇ごっこ」(4件)が多く実践されており、保育歴10年以上の保育者の記述によると、劇ごっこを普段のあそびから発表会に展開しているとあった。日々のあそびから発表の場へと繋げている様子が伺われた。

新人・中堅保育者において実践が弱かった「②感動したことの伝え合い」については、「一日の発表を最後にする」(保育歴10年以上)、「帰りの会などで、伝え合う」(保育歴10年以上)と、毎日必ず一日を振り返る時間や場を設け、驚きや感動したことを子どもたちと共有しているようである。

②身体表現あそびの抜粋

次にこの表から、身体表現に関わる内容と思われるものを抽出した。

幼稚園における身体表現あそびの実践内容について

表5 領域「表現」の項目の実践内容		3. 認識したことや伝え合う楽しさを味わう。	4. 感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由に言い、つづたりする。	5. いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	6. 音楽への親しみ、歌を取ったり、楽器を使ったりする楽しさを味わう。	7. かいたり、つづたりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	8. イメージを動きや言葉などで表現したり、楽しんで遊んだりする。
10年	1. 音、色、形、手触り、動きなどに気づいたり、感じたりするなどして楽しむ。		花や草、虫の話をする				
20年							
30年							
40年	絵の具遊び、粘土、体操、運動あそび、積み木	できていない	絵の具あそび、空き箱製作	絵の具、空き箱、小麦粉粘土	うたの会にむけて歌う	月1の製作	ままごと(自由あそび)
50年							
61～3年							
71～3年							
81～3年							
91～3年	体操指導、色探し、製作等	環境について季節に応じた話をする。	リズム遊び、オブジェ作り等製作	リズム遊び(廃材を利用した製作あそび)	音楽発表会	日々の製作活動	発表会
101～3年							
111～3年							
121～3年							
131～3年							
14～6年	ピアノ、木太鼓など音を使った表現あそび、ぞう、かえるになる	しゃべんだま、あわあわ、新聞紙、粘土あそび	絵の時間や自由に制作したりする	新聞紙粘土、泥んこあそび、あわわあそび(缶蓋をけずって油立てる)	朝や帰りの会で3曲は毎日歌う。楽器あそび(ミニキーボード)、オルガン楽器(わらべうた)	空き箱製作	忍者ごっこ、ペープサート
24～6年							
34～6年		雨が上がった日に虹を探した。	粘土あそび	お店屋さんごっこ(廃材を使って)	保育参観や発表会で楽器		劇ごっこ
44～6年							
54～6年							
64～6年							
74～6年							
84～6年							
94～6年	田んぼで泥遊び、雨音を聴く	実験展見学、音楽鑑賞会		好きな遊びの中で用意した教材を使ったり、幼児と一緒にイメージに合うものを探す			
104～6年							
117～9年							
127～9年	雨の日に雨音を聴く、花で色水遊び、野菜を育てる。暑くばの形、手触り、かつもりやオヤマジャコウの飼育	雨の日に雨音を聴く、花で色水遊び、野菜を育てる。暑くばの形、手触り、かつもりやオヤマジャコウの飼育	散歩に出かけたときに身につけたものの、出逢ったこと	散歩で思いついたカタツムリの動きや真似したり、歌を取ったり、絵を描き、活動とのつながりを持たせる。	コーナーに牛乳パックやずらんテープなどを置いてある。また特に関心のある曲を選び、ネットや録音等を利用してあそびや歌、手あそび	発表会に使うものを子どもたちと一緒に作る。	
137～9年	地域へのお散歩	毎月のお誕生会で地域の方に人形劇やオカリナ演奏をしてもらう。	毎月のお誕生会で地域の方に人形劇やオカリナ演奏をしてもらう。	空き箱製作	空き箱製作	空き箱製作	劇ごっこ
147～9年	野菜等の栽培、葉の飼育	園外などの自然を見に行く、絵本の読み聞かせ	園外などの自然を見に行く、絵本の読み聞かせ	空き箱製作、絵画	空き箱製作、絵画	お店やツリー作りなど	劇ごっこ遊び、劇遊び
157～9年							
210年以上							
310年以上							
410年以上	砂遊び、絵、体操、ダンス、ゲーム	本物を見る	一日の発表を最後にする	描いたり、作ったりはやっている。	製作	製作活動	
510年以上							
610年以上	雨音を聞いたり、色水あそびをしたり	季節の花を飾る	日常の中で共感、雨りの会などで伝え合う。			月々のうたを朝の会で歌う	幕役のあそび～発表会(劇ごっこ)
710年以上							
820年以上							
920年以上							

表6 抜粋 身体表現あそび

項目	内容
①音、色、形、手触り、動き	体操 (3)、リトミック、ダンス、動物の表現、音を使った表現あそび、運動あそび
②美しいものや心動かす出来事	
③感動したことを伝え合う	
④感じたことの表現	リトミック、リズムあそび、発表会 (劇ごっこ)、お店屋さんごっこ、レンジャーごっこ、散歩で見つけた生き物の動きの真似
⑤いろいろな素材あそび	お店屋さんごっこ (廃材を使って)
⑥音楽あそび	体操
⑦造形あそび	ごっこあそび
⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ	劇ごっこ (4)、発表会 (2)、忍者ごっこ、ごっこあそび、ままごと (自由あそび)

表7 身体表現あそび実践上の問題点

<p>新人群 (保育歴0～3年) 13人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>手あそびやダンスはとても大好きで喜んでやっているが、やろうとしない子どもが何人か見られる。その子どもへの声かけが難しい (保育歴1～3年) 他6人</u> ・ 年少の子どもたちに説明する時の言葉かけが難しい (保育歴0年)。 ・ 細かな動きではなく、身体を大きく動かせる表現へつなげられるような表現あそびの指導 (保育歴1～3年) ・ 部屋が狭くのびのびできない (ホールがない)。(保育歴1～3年)
<p>中堅群 (保育歴4～9年) 15人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>あまり関心のない子、苦手な子、消極的な子にどのように援助すればよいのか苦痛になっていないか、心配です。(保育歴4～6年) 他6人</u> ・ 自身のレパートリーが少ないので、指導が偏る (保育歴4～6年) ・ 遊びの中で指導・援助となると難しい。(保育歴4～6年) ・ やる時間とスペースがない。(保育歴4～6年) ・ 自分の知識がなく、なかなか挑戦しようと意欲が持てない (保育歴4～6年) ・ 保育者のセンスが問われてしまうこと。(保育歴7～9年)
<p>ベテラン群 (保育歴10年以上) 9人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>表現しながらの子への働きかけ (保育歴20年以上) 他3人</u> ・ <u>遊びの中で自由に表現している時は良いが、運動会などみんなで一緒にしなければならない時の苦手な子への指導 (保護者理解を求めたり、個別対応、その子なりの成長・・・でやっています)。(保育歴20年以上)</u> ・ 恥ずかしがる子が昔より増えた。(保育歴10年以上) ・ 表情や動きのない子には苦労している。(保育歴10年以上) ・ 子どもの自発的な意見と声かけ・補助のバランス。(保育歴10年以上)

合計37人

表6から、項目「①音、色、形、手触り、動き」にたくさんの身体表現活動が回答されている。体操からリトミック、ダンス、音の表現、運動あそび、ゲームとその種類も多く、子どもたちが全身を使って活動し、様々な動きに気付いたり、感じたりすることにつながると考えられる。また「ごっこあそび」は前述の①はもちろんのこと、「④感じたことの表現」、「⑤いろいろな素材あそび」、「⑦造形あそび」、「⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ」にも挙げられている。

2. 身体表現あそび実践上の問題点

次に身体表現あそびについて、見ていく。

身体表現あそびを実践する上で問題に感じることを自由記述で回答してもらった。その回答をまとめたものが表7である。

下線で示したように、どの群からも身体表現あそびへ積極的に参加できない子への対応が挙げられた。身体表現あそびを進んでやろうとしない子どもへの対応や働きかけなど、これが身体表現あそび実践上の非常に大きな課題といえる。

また「進んでやろうとしない子どもへの対応」と回答した18件の分析を行った。身体表現あそびに消極的な理由は以下の通りである。

表8 「身体表現あそびの消極的な理由」 18件

- ・自分を表現することが苦手である (4件)
- ・身体表現あそびに興味・関心がわからない (3件)
- ・みんなと一緒にできない、中に入れない (2件)
- ・あまり身体表現あそびが好きではない
- ・他のことに興味がある
- ・動きたくない (最初から「疲れた」という)
- ・どう表現していいか、分からない
- ・人前で表現したくない
- ・「消極的」のみ記述 (4件)

以上のように、ひとまとめに身体表現あそびが消極的といっても、その状況はいろいろであると分かった。最も多かったのが、自分を表現することが苦手とした保育者の意見であったが、「苦手」とはどういうことか、身体表現の経験が少ないのか、身体表現が好きでないのか、表現をしようと思ってもどう動いて分からないのか、子どもによって異なるであろう。この問題について、さらに考える必要がある。

次にすべての群に身体表現あそびの指導内容についての記述があった。新人群では「細かな動きではなく、身体を大きく動かせる表現へつなげられるような表現あそびの指導」(保育歴1～3年)、「年少の子どもたちに説明する時の言葉かけ」(保育歴0年)と、基本的な指導方法についての問題を挙げている。中堅群では日々ダンスや手あそびは取り組んでいるが、「遊び中で指導・援助となると難しい」(保育歴4～6年)、「どう発展させていくのか、そのためにどんな環境を用意すればよいのか」(保育歴7～9年)、「子どもたちのイメージを広げられるような言葉かけが難しい」(保育歴7～9年)と、自由あそび場面での身体表現あそびでの援助の方法や、子どもたちの身体表現あそびを広げていくことのできる環境づくり、活動の展開、イメージの耕しについて、考えている様子が分かる。さらにベテラン群になると、「子どもたちの自発的な意見と声かけ」(保育歴10年以上)とあるように、指導者主導で保育を展開するのではなく、子ども達が主体的に身体表現あそびを行うためにどうしたらいいかを考えている様子が推察される。

また指導方法以外については、中堅群やベテラン群に以下の問題が見られた。中堅群では「自身のレパートリーが少ないので、指導が偏る」(保育歴4～6年)、「自分の知識が少なく、なかなか挑戦しようという意欲が持てない」(保育歴4～6年)

表9 取り組みやすい身体表現あそびの題材 — 子どもたちと保育者 —

新人群

保育歴	子どもたちが取り組みやすい題材	保育者が取り組みやすい題材
1 0年	カエル・うさぎ・ちょうちょなど身近な生き物に変身して体を動かす遊び	歌を歌って子どもにも表現してもらい・変身あそび・準備がいらず、すぐのできる遊び
2 0年	親しみを持っている歌	記述なし
3 0年	動物のまね	リトミック
4 0年	ごっこ遊び	体操
5 0年	おままごと	記述なし
6 1～3年	劇ごっこ・絵本の話	保育者も一緒にできるもの
7 1～3年	動物	ピアノを使っているリトミック
8 1～3年	手あそび・ダンス	左と同様
9 1～3年	動物	体操やダンス
10 1～3年	ごっこ遊び(子ども達の中で流行している戦隊もの)	音楽をかけて行う体操
11 1～3年	オペレッタ・リズム体操・リトミック	オペレッタ
12 1～3年	ヒーローごっこ・警察ごっこ・音に合わせてイメージで身体を動かす	リズム体操
13 1～3年	TVで流行っている曲(マルモやAKB)	リトミック・ダンス・動物のまねっこ・手あそび

中堅群

保育歴	子どもたちが取り組みやすい題材	保育者が取り組みやすい題材
1 4～6年	動物・天気・おもちゃのチャチャチャなどリズムある曲	ダンス・体操・ゲームあそび(忍者まねっこゲーム)
2 4～6年	動物のまね・ヒーロー遊び	自然を使った遊び
3 4～6年	虫や動物など、身近なテーマ	左と同様
4 4～6年	動物、生き物(子ども達のイメージしやすいもの)	左と同様
5 4～6年	〇〇レンジャー(ヒーローごっこ)特にTVの題材が好き	リトミック・組み立て体操
6 4～6年	動物・ラーメンや納豆、宇宙人などちょっと変わったもの	帰りの会などちょっとした時にできるもの。ダンスなど、楽しい音楽に合わせてできるもの
7 4～6年	発表会・運動会の踊り・動物	月刊絵本内からの変身ごっこ
8 4～6年	動物のまね・簡単に動けるもの	左と同様
9 4～6年	身体全体で経験したこと(泥あそび・竹の子・サツマイモ)	左と同様
10 4～6年	記述なし	色々なイメージを持って変化がある曲
11 7～9年	絵本や紙芝居などのストーリーをごっこあそびで表現している	手あそび・ダンス(創作)
12 7～9年	自分たちが好きと思える曲	記述なし
13 7～9年	体操・動物	体操・リトミック
14 7～9年	体操・ごっこあそび	体操・踊り
15 7～9年	動物のリトミック	左と同様

ベテラン群

保育歴	子どもたちが取り組みやすい題材	保育者が取り組みやすい題材
1 10年以上	ヒーローごっこ(布やビニール1枚でもなりきることができる)	歌の歌詞による表現
2 10年以上	リトミック・動物	音楽をつけやすいもの
3 10年以上	流行のヒーローやキャラクターのダンス・体操	体操・踊り
4 10年以上	リズムやリトミックあそび	左と同様
5 10年以上	ごっこ遊び(年少なので動物のなりきり)・踊り・体操	左と同様
6 10年以上	ダンス・絵	体操・手あそび・ダンス・リトミック
7 10年以上	記述なし	記述なし
8 20年以上	手あそび・歌あそび・ごっこ遊び・縄跳び(わらべうた)ダンス(創作)	手あそび・歌あそび・リトミック
9 20年以上	まねっこあそび・変身ごっこ・手あそび・ままごとあそび・体操・リトミック・リズムあそび	まねっこあそび・手あそび・リトミック・リズムあそび・歌あそび

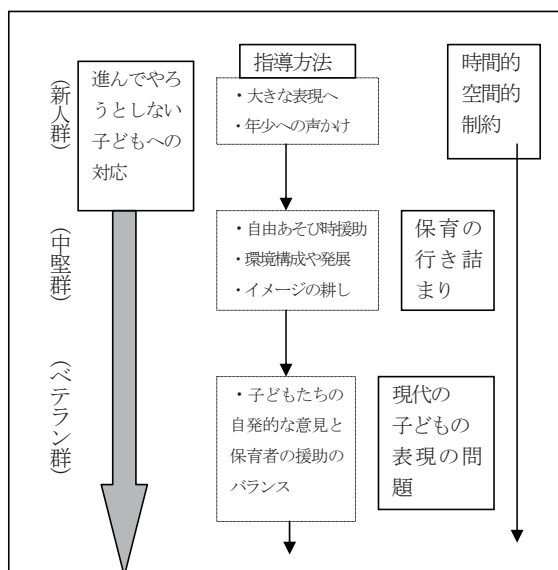
※下線は同回答

とあるように、自分の保育にマンネリ化や行き詰まりを感じているようである。また保育経験が豊かなベテラン群においては、「恥ずかしがる子が昔より増えた」（保育歴10年以上）、「表情や動きのない子には苦労している」（保育歴10年以上）と昔と比べて、現代の子どもたちの表現について心配する意見があった。

またどの群でも、「部屋が狭くのびのびできない（ホールがない）」（保育歴1～3年）、「やる時間とスペースがない」（保育歴4～6年）、「身体表現やリトミックを入れる時間を作るのが難しい」（保育歴10年以上）と、空間的・時間的制約を問題点として挙げている。身体表現を行う場合は、音楽や造形のように保育室で座って行う訳にはいかず、全身を動かすスペースが必要となる。また継続的に身体表現あそびを行う時間を設けている園も少ない。そのような中で、身体表現あそびをどう実践していくのか、これらをふまえて考えていく必要がある。

以上の身体表現あそびの実践上の問題点を図化すると以下のようにまとめられる。

図3 身体表現あそびの実践上の問題点



また「運動会などみんなで一緒にしなければならない時の苦手な子への指導」（保育歴10年以上）が難しいとあり、「発表」という形によって身体表現あそびが強制され、自由に表現する楽しさが奪われてしまうのではないかと考えられる。

3. 身体表現あそびの題材

子どもたちが取り組みやすい身体表現あそびの題材と保育者が取り組みやすい題材について、質問した。各群にまとめたものが表9である。

保育者本人が回答しているから当然といえそうであるが、子どもが取り組みやすい題材と保育者が取り組みやすい題材が同じ回答は43.2%（16件／全37件）あった。

(1) 子どもたちが進んで取り組みやすい題材

子どもたちが進んで取り組みやすい題材について、まとめたものが表10である。

表10 子どもたちが進んで取り組みやすい題材

題材	新人	中堅	ベテラン	計
動物・生き物	4	7	2	13
体操	1	2	3	6
リトミック	1	1	3	5
ヒーローごっこ	2	2	1	5
ダンス	1	0	3	4
好きな曲・歌	2	1	0	3
手あそび	1	0	2	3
ごっこあそび	1	1	1	3
絵本・紙芝居	1	1	0	2
ままごと	1	0	1	2
リズムあそび	1	0	0	1
劇ごっこ	1	0	0	1
オペレッタ	1	0	0	1
警察ごっこ	1	0	0	1
音に合わせてイメージで体を動かす	1	0	0	1
天気	0	1	0	1

リズムのある曲	0	1	0	1
ちょっと変わったもの	0	1	0	1
運動会の踊り	0	1	0	1
簡単に動けるもの	0	1	0	1
発表会	0	1	0	1
身体全体で経験したこと	0	1	0	1
絵	0	0	1	1
歌あそび	0	0	1	1
縄跳び	0	0	1	1
まねっこあそび	0	0	1	1

新人群では「動物・生き物」(4件)、「ヒーローごっこ」・「好きな曲・歌」(2件)となる。中堅群では突出して「動物・生き物」(7件)が多く、次に「ヒーローあそび」・「体操」(各2件)となった。ベテラン群では「体操」・「リトミック」・「ダンス」(各3件)が多く、次に「動物・生き物」・「手あそび」(各2件)となった。

全体で見た時は「動物・生き物」(13件)が圧倒的に多く、次に「体操」(6件)となり、「ヒーローごっこ」・「リトミック」(各5件)、「ダンス」(4件)となる。

以上のように、新人群・中堅群では「動物・生き物」が子どもたちの表現しやすい題材であるとしている。

(2) 保育者が取り組みやすい題材

次に保育者が取り組みやすい身体表現あそびの題材について見ていく。保育者が取り組みやすい題材についてまとめたものが表11である。

表11 保育者が取り組みやすい題材

題材	新人	中堅	ベテラン	計
体操	4	3	2	9
リトミック	3	3	3	9
ダンス	3	4	2	9
手あそび	2	1	3	6

動物・生き物	1	2	0	3
歌から表現	1	0	1	2
歌あそび	0	2	0	2
変身あそび	1	0	0	1
オペレッタ	1	0	0	1
すぐできるあそび	1	0	0	1
保育者も一緒にできる	1	0	0	1
ゲームあそび	0	1	0	1
自然を使ったあそび	0	1	0	1
組み立て体操	0	1	0	1
ちょっとした時間にできる	0	1	0	1
絵本から	0	1	0	1
動物	0	1	0	1
簡単に動ける	0	1	0	1
身体全体で経験したこと	0	1	0	1
変化のある曲	0	1	0	1
ごっこあそび	0	0	1	1
リズムあそび	0	0	1	1
まねっこあそび	0	0	1	1
音楽のつけやすいもの	0	0	1	1

各群では、新人群は「体操」(4件)が一番で、「リトミック」・「ダンス」(各3件)が次に続く。中堅群では、「ダンス」(4件)が一番で、「体操」・「リトミック」(各3件)が次になる。ベテラン群では、「リトミック」・「手あそび」(各3件)が一番多く、「体操」・「ダンス」・「歌あそび」(各2件)となる。

次に全体で見ていく。「体操」・「リトミック」・「ダンス」(各9件)で、次に「手あそび」(6件)となる。

以上から、各群で順位は違うものの、「リトミック」、「体操」、「ダンス」が保育者にとって取り組みやすい身体表現あそびの題材であるということが分かった。音楽やリズムに合わせて動く「リトミック」、動きが決まっている「体操」、決まった振りをすることが多い「ダンス」は保育歴に関係なく、保育者が取り組みやすい題材である。

また少数意見であるが、以下の回答があった。

表12 保育者が取り組みやすい題材（少数意見）

- ・「準備がいらず、すぐできる遊び」（保育歴0年）
- ・「保育者も一緒にできるもの」（保育歴1～3年）
- ・「帰りの会でちょっとした時間にできるもの」（保育歴4～6年）
- ・「音楽がつけやすいもの」（保育歴10年以上）

身体表現あそび実践を考える上で、大切な視点かもしれない。

4. 子どもたちの身体表現エピソード

子どもたちがなりきって表現している印象に残っているエピソードをまとめたものが表14である。集まった35件のエピソードから子どもたちが表現しているテーマは何かを抽出し、また文脈を読み込み、以下のカテゴリーに分類した。

表13 身体表現エピソードのカテゴリー

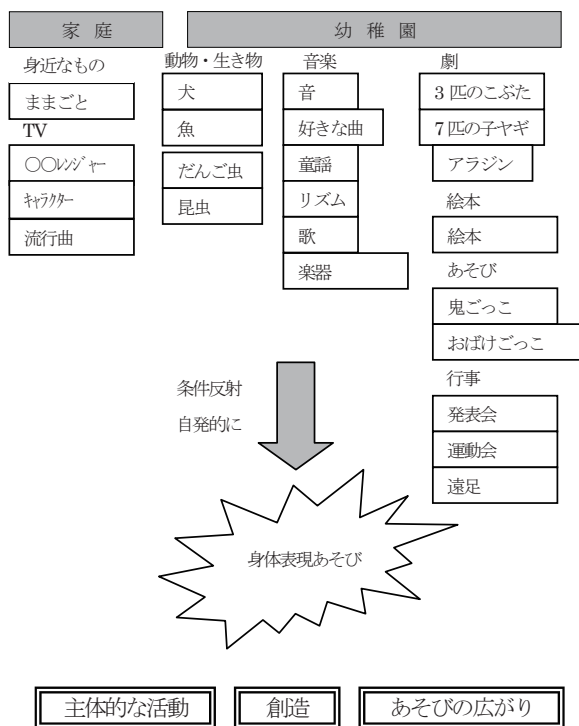
- 「なりきり」…子どもたちがなりきって表現している様子
- 「自由表現」…即興的に自由に表現している様子
- 「条件反射」…思わず踊りだしてしまう、演じてしまう様子
- 「発想力」…子どもたちの発想豊かな様子
- 「主体性」…子どもたちが主体的に活動する様子
- 「自分なり」…自分なりに表現している様子
- 「広がり」…あそびが他の活動に広がっていく様子
- 「創造」…子どもたちが自ら振りや踊りを考え出す様子
- 「役割分担」…子どもたちが役割分担して演じている様子

表14より、保育歴による違いはなく、保育者たちが子どもたちのいきいきとした身体表現を捉えていると分かった。題材については、子どもたちの身近なもの（家族・動物・生き物・自然）や好きなもの（ヒーロー・お化け）、音楽（歌や曲）、劇の登場人物、体操、ダンスなどであることが分かった。さらに好きな身体表現あそびであると、自分達で集まって勝手に踊り出すなど主体的に活動し

たり、さらに新しい場面を作り出したり、振付を考え出したりするということが分かった。また気に入った身体表現あそびの活動であると、自由あそびの場面にもあそびが広がっていくようである。

以上の35件のエピソードから、子どもたちの身体表現を図化したものが以下である。

図4 子どもたちの身体表現エピソード



子どもたちの「主体的な活動」や「創造」、「あそびの広がり」を生み出すためには、まず身体表現あそびを誘発する身体表現の題材が大切であると分かる。それはよく論じられることであるが、家庭や園などの子どもたちの身近にあり、子どもたちが興味・関心を持っているものでなければならぬ。子どもたちの心に響く題材があれば、子どもたちは条件反射のように踊り出し、自発的に表現を始める。この身体表現あそびへとつながる矢

表14 子どもたちの身体表現の様子（なりきって身体表現しているエピソード）

新人期	題材	分類
<p>・ままごとの場で役になりきって遊んでいる。(年中)</p> <p>・音に合わせて体をめちゃくちゃに動かし、止まってポーズを決める。(年少)</p> <p>・オペレッタを行うと跳びはねて楽しんでいます。思わず、自分の役ではない所まで2役、3役踊りだしてしまう子どももいます。(年中)</p> <p>・登園してきて、すぐ犬のまねをずっとしていた。(年少)</p> <p>・オルガンの一番高い音を連続して鳴らすと「あっ、星の音だ!」と子ども達。手を上に挙げて、キラキラと動き出しました。「他に何の音に聞こえるかな?」と聞くと「魚の音!」と泳ぐ真似をはじめました。子どもの表現力、想像力の素晴らしさを感じました。(年少)</p> <p>・自由時間、子ども達で好きな曲を流し、踊っていた。(年長)</p> <p>・童謡の歌詞に合わせて、自分なりに表現しながら歌っていた(年中)</p> <p>・だんご虫ごっこ。先生が触ると丸くなるあそびに発展して、「触っても丸くならないだんご虫もいるんだよ」「にせもののだんご虫だよ」と。「ぞうり虫って言うんだよ」と教えると、「先生、「ぞうり虫見つけた」と教えてくれました。(年少)</p> <p>・発表会で「3匹のこぶた」をやった時、とても元気な子どもたちなので、原作にはない戦いシーンを入れたところ、自由あそびの時には遊びに取り入れられていた。(年中)</p>	ままごと音	なりきり 自由表現
	オペレッタの役	条件反射
	犬	なりきり
	星・魚	発想力
	好きな曲	主体性
	童謡の歌詞	自分なり
	だんご虫	広がり
	3匹のこぶた	創造・広がり
記述なし5名		
中堅群(16名)	題材	
<p>・かつおぶしになりきっていた。(フリー)</p> <p>・エビカニクス(年少)</p> <p>・だんごむし(年少)</p> <p>・リズムを使って季節の表現あそび(年中)</p> <p>・ダンス(好きな曲をかけて自由に踊る)(年中)</p> <p>・〇〇レンジャーやカーズになりきっている子が多い。効果音も入れている(年中)。</p> <p>・劇あそびのなりきりには感心してしまいます。(年少)</p> <p>・マルマル・モリモリお歌を聞くと踊りだす。(年中)</p> <p>・七匹の子ヤギ、役割を持って表現している。(年中)</p> <p>・春の運動会で行った「昆虫太極拳」はかなり気に入って、テープを流すと条件反射のように踊りだします。(年中)</p> <p>・うた(きのこなど)(年長)</p> <p>・ごっこ遊び(年長)</p> <p>・ごっこ遊びを含めた鬼ごっこ(年長)</p> <p>・発表会「アラジン」の踊り(年少)</p> <p>・マルマル・モリモリ(年少)</p> <p>・4歳児を持った時、「はたけのポルカ」をクラスで歌っていました。それを使って表現あそびをしたところ、本来の5番までではなく、子どもたちが自分達から「うさぎ」→「にんじん」などのアイデアを出して、オリジナルの歌詞をつけて遊び出した。(年中)</p> <p>・子どもの好きな曲を遊戯室にかけていたら、勝手に振り付けをし、歌まで作り始めていた。(年少)</p> <p>・ばちを持って和太鼓の曲を運動会に踊る練習をしていた頃、デッキやばちを用意おくと、自分たちで仲間を集めて、テラスで踊り出した。空に向かって掛け声を合わせることを楽しんでいて。(年)</p> <p>・おばけごっこから、おばけの表現あそびが始まっています。体に使ったものを身に付けて、なりきって遊んでいます。ごみ箱から色々探して、ガムテープでくっつけている子も。(年中)</p>	食べ物	なりきり
	ダンス	なりきり
	だんご虫	なりきり
	リズム	なりきり
	好きな曲	主体性・自由表現
	ヒーロー、キャラクター	なりきり
	劇あそび	なりきり
	流行曲	条件反射
	7匹の子ヤギ	役割分担
	昆虫	条件反射
	歌	なりきり
	ごっこ遊び	なりきり
	ごっこ遊び	なりきり
	発表会「アラジン」	なりきり
	流行曲	なりきり
	歌「煙のポルカ」	創造
	好きな曲	創造
	和太鼓	主体性
	おばけ	主体性
記述なし3名		
ベテラン群(9名)	題材	分類
<p>・「かえるのうた」にあわせて、かえるになって飛跳ねていた。(年長)</p> <p>・水族館へ遠足に行って、ペンギン展示のところでペンギンが泳いだり、水中で遊んでいる様子を真似ていた5歳女児の姿を見て、ペンギンがたくさん集まってきた、まるで一緒に遊んでいる様だった。(不明)</p> <p>・知っている曲、楽しい曲がかかると、リズムに合わせて、跳んだり、はねたり、手足を動かし始めた。(年中)</p> <p>・楽器を使って(年少)</p> <p>・「だるまさんが」シリーズに絵本を見て、自分がだるまさんになり、遊んでいた。(年長)</p> <p>・「こんなの!」とうまく言葉で表現できない時、自分の体を使って表現していた。(年中)</p> <p>・イルカショーのお姉さんになって、イルカ役の子達とショーごっこをしていた。口調、鳴き声までそっくりだった。(年中)</p>	歌「かえるのうた」	なりきり
	遠足・ペンギン	なりきり
	知っている曲・楽しい曲	踊りだす
	楽器	なりきり
	絵本・だるま	なりきり
	気持ち	条件反射
	遠足・イルカ・お姉さん	なりきり
記述なし4名		

印を生み出すための題材選択こそが子どもたちになりきって身体表現できる大切な要素であると分かった。

V. まとめ

以下が本研究で明らかになったことである。

- ・ 表現あそびの実践は保育の経験を重ねるほど、実施度は上がり、バランスも良くなっていく。
- ・ 新人群では「⑥音楽あそび」の実施度が高く、「⑧イメージの表現、演じて遊ぶ」内容の実践が弱い。
- ・ 「②伝え合い」の実践は新人群・中堅群ともに弱い。
- ・ 身体表現あそびについて、保育歴に関係なく、身体表現あそびに進んで取り組むことができない子どもへの対応が一番の大きな問題である。また消極的といっても、いろいろな原因がある。
- ・ 空間的・時間的制約が身体表現あそびの実践を妨げている。
- ・ 子どもたちが取り組みやすい身体表現あそびの題材は「動物・生き物」であった。保育者が取り組みやすい題材は「リトミック」・「体操」・「ダンス」であり、保育歴に関係ない。
- ・ 準備がいらず、すぐでき、ちょっとした時間に行えることも身体表現あそび実践には大切な視点である。
- ・ 身体表現あそびの理想のモデルは、家庭や園など、子どもたちの身近なものをテーマに身体表現あそびを展開すること、その時子どもたちの発想や主体性を大切に、子どもたちの創造力を発揮できるよう、またあそびが他のあそびに広がるように配慮・援助することが大切である。

VI. 考察

(1) 表現あそびの実践状況

領域「表現」の8項目の実践状況の調査から、「⑦造形あそび」、「⑥音楽あそび」、「⑤いろいろな素材あそび」の実施度が高いということが分かった。領域「表現」の保育内容が造形や音楽表現に偏りがちであることを示す結果といえる。特に新人群では「⑥音楽あそび」の実施度が高く、保育歴が長くなるほど実施度が低下することから、保育の経験を積むことで、音楽以外の表現あそびへと活動の幅が広がっていくのではないかと考えられる。

また新人群が苦手としたのは「⑧イメージの表現あそび、演じて遊ぶ」(2.92)であり、経験の浅い保育者がなかなか実践できていない様子が伺われる。イメージを表現し、演じて遊ぶという活動は保育者として経験が必要な活動といえる。また新人群と中堅群が弱かった「②伝え合い」の活動もベテラン群の実施度が高かったことより、ベテランほど表現の原点となる日々の振り返りや伝え合いを大切にしていることを示している。

以上から、保育の経験を積むことで、バランスよく表現あそびを実践することができるということが分かった。

(2) 身体表現あそび実践の課題

「身体表現あそびを進んで取り組むことができない子どもへの対応」の問題に、保育の経験を問わず、多くの保育者が頭を悩ましていると分かった。運動があまり得意でない子、音楽があまり得意でない子、造形があまり好きでない子がいるように、身体表現あそびが苦手な子どもも当然いるはずであるが、そのことが身体表現あそび実践の大きな障害となっている。この課題克服こそ、多くの保育者が取り組みやすい身体表現あそび実践の鍵となると考える。しかしながら、「進んでやる

うとしない子ども」といっても、多様であるということが今回の研究でも分かった。今回の分析では十分でないため、より細かな分析をすることで、保育者が不安なく、身体表現あそびを实践できるのではないかな。

(3) 身体表現あそびの題材

子どもが進んで取り組みやすい題材としては、「動物・生き物」が新人群と中堅群で最も回答が多かった。「動物・生き物」は子どもたちも好きで、子どもも保育者もイメージしやすい題材である。また動く題材であるので、静止（ポーズ）で終わらず、いろいろな動きを引き出すことができる。また「大ー小」、「速いー遅い」と動きの質も変化させることができ、身体表現の幅を広げることができる。しかし、中堅群において、身体表現あそびの实践上で苦労している点として、「レパートリー不足」や自分の保育の「行き詰まり」を挙げている。「動物・生き物」をテーマにした身体表現あそびがマンネリ化にならないように「動物・生き物」以外に子どもたちの興味をひく題材はないかと常に考えることで、身体表現あそびの行き詰まりを打破できるのではないかな。

また、保育者が取り組みやすい身体表現あそびの題材として、「リトミック」・「体操」・「ダンス」が挙げられた。音楽やリズムに合わせて動く「リトミック」、全身を動かす「体操」、振付が決まっていることが多い「ダンス」は保育歴に関係なく、保育者が取り組みやすい題材である。これらは、子どもたちに様々な動きの経験を与え、動きの発見につなげることができる。これらの動きの耕しを十分行った上で領域「表現」のねらいである「自分なりに表現」、「創造性を豊かにする」ことが大切である。自分の「イメージ」を「動き」に変えていく面白さ、新しい「動き」を「創造」する楽しさを味わえるように身体表現あそびの实践内容を考えていく必要がある。また保育者の多くが感じて

いる空間的・時間的制約を打ち破るためにも、「保育室ですぐにできる」、「ちょっとした時間にできる」身体表現あそびが实践しやすさにつながるといえる。

VII. 結論

多くの保育者が身体表現あそびを实践するためには、身体表現あそびに「進んで取り組むことができる子どもへの対応」を考えることが大切である。これらを明らかにすることで身体表現あそび实践の手立てとなる。また「保育室ですぐにできる」、「ちょっとした時間にできる」ことも实践しやすい身体表現あそびの大事な視点である。

引き続き、多くの保育者が实践しやすい身体表現あそびについて、研究を進めていきたい。

(謝辞)

本研究におきまして、質問紙調査にご協力頂いた幼稚園の先生方には感謝申し上げます。この場を借りて、御礼申し上げます。

【引用文献】

(論文)

- ・ 本山益子、鈴木裕子、西洋子、吉川京子「保育における身体表現Ⅲ－保育歴による違い－」（日本保育学会、2003年）

(文献)

- ・ 黒川建一『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房、2004年1月）

(HP)

- ・ 無藤隆、柴崎正行、田河慶太「幼稚園教育要領の改善の方向性について 座談会」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121722/001.pdf

【参考文献】

文献

- ・ 岡田陽『子どもの表現活動』（玉川大学出版、1994年7月）
- ・ 黒川健一編『『新・保育講座 保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房、2004年1月）
- ・ 花原幹夫編『保育内容「表現」』（北大路書房、2005年4月）
- ・ 西洋子・本山益子編『子どもの身体表現～からだところろ・あらわしてあそぼう～』（市村出版、2009年4月）
- ・ 西洋子、本山益子、吉川京子『子ども・からだ・表現 ―豊かな保育内容のための理論と演習―』改定2版（市村出版、2009年5月）

論文

- ・ 西洋子・本山益子「幼児期の身体表現の特性Ⅰ ―動きの特性と働きかけによる変化―」（『保育学研究』第36巻第2号、平成10年12月25日）
- ・ 本山・西・鈴木・吉川「保育の中の「身体表現」―その現状と展望―」（『保育士養成研究』第20号、2002年）
- ・ 鈴木・西・本山・吉川「幼児期における身体表現の特徴と援助の視点」（『舞踊学』通号25号、23-30頁、2002年）
- ・ 本山・平野「身体表現あそびの保育内容の検討―2～5歳児クラスでの「草むらごっこ」の実践から」（日本保育学会第64回発表要旨集、294頁、2011年）

注

- 1 幼稚園教育要領〈平成20年告示〉第2章ねらい及び内容「表現」
- 2 黒川健一『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房、2004年1月、頁29）
- 3 前掲書 第7章領域「表現」のこれまでとこれから（頁206-207）
- 4 無藤隆、柴崎正行、田河慶太「幼稚園教育要領の改善の方向性について 座談会」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121722/001.pdf
- 5 幼稚園教育要領〈平成20年告示〉第2章ねらい及び内容「表現」
- 6 前述の通り、項目②、⑤、⑧の実施度が低い。

The Contents of the Body Expression Plays at the kindergarten

TAGO Ayaka

【abstract】

How can preschool teachers practice body expressions without resistance? With an aim of revealing the ways and means of promoting body expression practices, I begin with a questionnaire survey on the contents of expression plays at the kindergarten.

From these results, I intend to understand the current situation and issues in practicing body expression plays and to reveal the challenges in practicing body expression plays in the field.

【key words】

The Contents of the Expression Plays, the Body Expression Plays and the Kindergarten